

「ふらっと・西京」第5回
～テーマ「自然」～

[講師の西京塾・大島さんのお話し]

○西京区の自然の魅力とは？

(西京区全域の自然の特徴)

- ・私たちはマチナカからサトヤマに至るまでさまざまなところに住んでいるので、個人個人で何を「自然」と理解しているか異なる。
- ・であれば、「自然」をどのように捉えるとよいか。
- ・例えば、広い範囲で「山」がある。さまざまな「池」「川」があり、小畑川、桂川にそそぐ。山林の際には「山里」があり、「竹林」がある。
- ・「水田」、「畑地」、「周辺のあぜ道」や「水路」が広がっている農地もある。
- ・ほかにも、水を好む「河辺林」、鎮守の森である「社寺林」、人工的に開発された「公園緑地」がある。
- ・このように土地利用が多様なために、私たちの目に映る、植生を始めとする生態系も多様である。

(西京区の自然とは？)

- ・したがって、西京塾では、「自然」を、「住民にとって身近にある、魅力ある自然の集まり」と捉えている。
- ・西山にねぐらを持つ鳥が小畑川へ水を飲みに来るように、その途中にある木々で羽を休めるように、空で起こっていることに思いを巡らすと、それぞれの「自然」は互いに関係があるはずであるので、西京区の「自然」は、「集まり」として「全体を捉える」ことが大事だと考えている。

○西京塾の自然を学ぶ取組の流れ

- ・西京塾では、自然を知り、環境に果たす役割について考える活動をおこなっている。例えば、公園で行う自然観察会がある。西京区内の公園で、公園愛護会の方々の協力を得て、子ども達と共に樹木や草や虫や季節などについて学んでいる。人工林ではあるが、身近で安全な公園を利用して、子どもたちに自然を感じてもらい、自然に関心を持つ切っ掛けになることを目指している。

[講師の西京塾・村上さんのお話し]

○美しい西京区の自然

(はじめに)

- ・会社勤めの頃は、桂の自宅より西に行ったことがなかったが、入塾後、大原野・

西山の自然を知る。洛西ニュータウン・桂坂の公園や緑道には珍しい植物が植えられていることも知る。

(西山)

- 桂坂公園からは、西山連峰を一望できるだけでなく、洛西ニュータウンや京都市内、遠くは男山八幡が望める。
- 小塩山、大暑山のある西山に魅了され、四季折々の山野草を見るのがとても楽しい。大原野森林公園は、珍しい山野草（3月フクジュソウ、5月ヤマブキソウ、8月オオキツネノカミソリ、10月トリカブト、アケボノソウなど）が多く自生している。しかし、山野草を盗掘する人があり、自然環境の変化（鹿や猪の増加）もあって、減少しているように思う。
- 春には天然記念物のギフチョウや、秋にはアサギマダラ等の蝶も見られる。サカハチチョウは、春型と夏型どちらとも見られる。
- 川の源流には滝がある。例えば、金蔵寺の滝（産の滝）は、向日明神が生まれた滝と伝えられている。また、一ノ滝、二ノ滝は、かつて平安時代初頃、声明がおこなわれていた。王城の滝は、都の枕詞の「王城」が名前に付けられている。小塩山（おじおやま）は、王城の山が訛ったという説がある。



フクジュソウ



ヤマブキソウ



オオキツネノカミソリ



トリカブト

(嵐山・松尾地域)

- 資料『よみがえる平安京』からは、桂川の川幅が現在よりかなり広がったことがわかる。
- 天然記念物のカギカズラは、願掛けの樹として知られる。南方系の植物で松尾大社が日本では北限と言われている。
- 法輪寺から苔寺にかけては、京都西山トレイルが整備されている。
- 苔寺の裏には、水晶、マンガンが採れた山があった。
- 西芳寺川上流の山の洞窟には、絶滅危惧種のコウモリが発見されている。
- 西芳寺川上流には、オオサンショウウオも生息している
- 唐櫃越、西山トレイル、その間をつなぐ山道は、地元の自治会（松尾）によってハイキングコースが整備されている。

(洛西ニュータウン)

- ユリノキやナンキンハゼなど珍しい樹木が、主要な道路に植えられている。春も美しいが、特に秋の紅葉がきれい。
- 境谷には、ソメイヨシノとヤマザクラの両方があり、境谷大橋を境に植生を分けて植えられている。
- 小畑川のソメイヨシノは、区民の誇りの木に指定されている。
- ラクセーヌにあるナンジャモンジャは、5月初め頃に白い花を咲かせる。
- 洛西総合庁舎前には、ハクウンボクなど珍しい樹木の花があり、初夏に咲かせる。
- ユリノキといえば、近代街路樹の先駆けだが（京都駅～京都御苑間）、ニュータウンでは陸橋の上から、花と同じ高さで、その花を目にすることが出来る。
- 新林本通りのケヤキの紅葉、大蛇ヶ池・新林池公園の紅葉などもきれい。
- ニュータウンは、桂坂方面の山並みを“北山”，小塩山を“西山”，芋峠のある西山丘陵を“東山”と見立てて、地形を考慮して、小京都をイメージして造成された経緯があると聴く。

(桂坂)

- 開発される前の自然や地形を野鳥遊園では残している。
- 野鳥遊園では、珍しい草花，鳥（カワセミ，オシドリ，ノゴマ，オオルリなど），昆虫（オオムラサキなど）が観察できる。
- 幹線道路の並木，緑道，公園，街路樹など多彩な植物が植えられていて，四季折々に目を楽しませてくれる。

(桂川流域)

- 多種多様な動植物のゆりかごとして多くの生物の命をはぐくんでいる。

- ・「市バス 29 系統で巡る…西京区の自然環境」では、図鑑的役割を持たせたので、気楽に持ち歩いて自然に親しんで欲しい。(※代表的な樹木, 野草, 昆虫を記載, 野鳥, 魚類については重複なしで調べやすいように記載)
- ・桂川の自然については, 余すところなく紹介している。
- ・本を作るにあたって, 何度か調査した際, 絶滅危惧種のゼゼウ, メダカ, ドジョウ, シジミ貝などが生息。水質は昔よりはよくなってきている。

(桂地域)

- ・桂は住宅地なので, それぞれの地域の神社や社寺, 学校や公園などに, 地元の人々が守ってきた町内のシンボルとなる大木がある。
- ・「区民の誇りの木 (西京区)」, 「おこしやす西京・洛西」を参照されたい。

(大原野地域)

- ・大原野は, かつて平安時代初期, 桓武天皇の狩場だった。
 - ・江戸時代末頃まで, 大原野や大枝地区の山々は, 禁裏御料所が管理していた。伐採を禁止していたので現在でも多くの自然が残っている。
 - ・いまでも, 大原野には溜池が多い。また, 徳利池, 摺鉢, 利兵衛池など面白い名称もある。(参照:「大原野水土里ウォーク Map」京都府土地改良事業団連合会 京都支部【大原野土地改良区 京都市】)
 - ・溜池では, 外来種のブラックバスやブルーギルが生息するので, 地元の関係者などが定期的に駆除をおこなっている。
 - ・大原野の石作町や灰方には, 美しい棚田がある。
- ・以上, 今回の話や写真資料など見られて, 西京区にこんな綺麗なところやいいところがあると少しでも感じていただけたら幸いです。

[参加された方からのご質問など]

Q公園で老人が花壇の世話をする人がいなくなってきた。(松陽地区)

⇒次の世代を育てたり, 老人センターとの連携をとってはどうか。

Q松尾地区でも以前は多く溜池があったが, 現在は埋め立てられて住宅になっている。

⇒現在の溜池の用途は以前と違っていて, 開発地や住宅地では嫌われ者になっているのではないかな?

Q大原野・西山でなくても, 身近な自然が桂等の各学区にあるのではないかな?

⇒代表的なものに各学区に区民の誇りの木があるのではないかな?

Q桂というが, カツラの木が見当たらない。どういふことなのかな?

⇒桂地区の名の起こりは、桂川流域近くの桂の木に月読の神が降り立ったことからきた。(※現在の上野辺付近・・・かつては神野と呼ばれていたが、恐れ多いということで上野になる)

当初、月読神社が創建されていたが、たび重なる桂川の氾濫で流され、松尾の方に移築された。当初の場所には産土神社がある。

桂には「月」が枕詞で「月の桂」という。古来中国の伝説に、桂の木には「不老不死」の意味がある。平安貴族たちは、桂の地に不老不死を求めて、こぞって別荘（桂別業）を建てたのではないかと（※月には枯れることのない桂の木が生えているという伝説が中国にはある。中国の「桂の木」はモクセイですが、日本に伝わった時、神秘性などからカツラの木になった。月の満ち欠けや新月、また、再生するところから、不老不死や永遠性、輪廻に結び付けられてきた。また、平安貴族たちは、桂にある桂別業に来て、仲秋の名月を愛でながら月の中に生える桂の木の黄葉に思いを馳せながら、不老不死を願ったのではないかと。仲秋の名月の時には、月の中の桂の木も黄葉して、一層月明かりが冴え渡るといわれている。)

[参加された方からのご意見]

(ため池)

- ・松尾・松陽のため池は埋め立てられた。
- ・大原野を除いて、宅地開発がなされていく過程で、ため池の重要性がなくなり、不要になったのではないかと思う。
- ・樫原に弁天池というため池があるが、不法投棄があり、悪臭がするため、周囲の住民は土地を売れというが、進んでいない。

(樹木)

- ・落ち葉をなんとかしてという声もあり、自然を残していくのは、無理じゃないかと思う。
- ・ニュータウンの新林池公園や大蛇ヶ池公園では、清掃活動をされている方もいる
- ・公園の管理は、公園愛護会もあるが、ボランティアでおこなっているのが現状で、継続的な活動となりにくい。

(西京区の自然)

- ・学区それぞれに「自然」の特色があるのではないかと（学区それぞれに「区民の誇りの木」がある）。
- ・深く掘り下げるのも大事だけれど、身近な「小さな自然」を探し、育てていくことも大事なのではないだろうか。

(「桂」のあれこれ)

- 桂の落葉はキャラメルの匂いがする。
- 桂離宮には一本もない。
- 桂の木は，桂坂口（並木），阪急桂東口，桂小学校などで見られる。
- 桂坂の桂は，桂坂入口の道路には桂の木の並木道があり，坂が多いところから桂坂と名付けられたようで，不老不死の意味があるのかわからない。

(水)

- 西山に降った雨は，蓋のされた人工的な溝を通して，小畑川へそそぐのが現状だが，流れるプロセスを見えるような取組ができないだろうか。

(西山保全)

- 平成25年度，京都市都市計画局風致保全課では，小倉山を手始めに，京都・三山の整備を進める計画があるので，「西山保全の絶好のチャンス」だと考える。